



私が村長に就任したのは、平成四年七月でした。当時日本列島は、平成のバブルもはじけ、不況という暗い時代に突入していくときでした。

当然各企業も経営は不振、若者も新天地を求め村を離れる傾向が強くなり、各自治体も財政面で苦慮している状況で、当村も当時債務が二十四億円強、これに対して基金は十一億円弱という苦しい立場でした。

この状況を打破するためには、まず行政が先頭に立ち見本を示さなければと真冬の寒い日が続く中、全職員がローテーションを組み飯田市内の物品販売の店頭に立ち、民間のスピード感、効率性等々を実体験してもらい、たった一週間づつでしたが真の「全体の奉仕者」としての研修ができ、それ以後見違えるようにすべてに取り組んでくれています。

次に村民の皆様にも当時の財務状況を報告し、皆さんにも出来る事は知恵を出し協力していただき

たいとお願ひし、今の材料支給事業等もその良き例です。二十四年経過した今でも、村内各所にて皆さんが尊い汗をかいてくれております。正に全員参加の村創りです。

こうした状況の中、無駄は徹底して省く反面、将来に向けて今対応しなければならぬ事業については積極的に取り組んで参りました。

特に人口増加対策では、若者定住住宅の建設、出産祝い金・保育料の半減・入学祝い金・高校生までの医療費無料化・教育ローンの補助・学校施設の充実・中学生の海外研修の等々充実に計って参りました。

定住人口増加に対しては、若者の住宅新築事業に上限百万円、併せて土地代も上限百万円、また中古住宅についても各種補助金を用意いたしました。

長寿化社会対応としては、各種検診の手厚い補助、後期高齢者・前期高齢者の皆様には医療費のそれぞれ五十%・三十%の補助等を含め、いつまでも健康で生活でき

る施策の充実に務めて参りました。さて、道路問題ですが、「主要地方道天竜公園阿智線」が四月九日に全線開通いたしました。

国道一五一号粒良脇トンネル工事は、地質が悪く苦勞されましたが、やっと本線ルートも決まり、地権者交渉の段階まで進んでいきます。近々に工事入札が行われます。

リニア中央新幹線も工事が具体的に始まっています。今、南アルプスのトンネル(約二十五km)山梨側の工事も始まり、長野県側の入札も済み、秋には着工予定です。

次は飯田市から中津川間のトンネル工事も始まる様になっていきますが、その掘削土の大半を「道の駅下條」下の窪地に埋め土させていたいただき広大な土地の利活用、更には同時進行の「三遠南信自動車道」も、今最大の難関箇所「青崩れトンネル」の工事に入っています。

この大きな事業が完成の暁には、今まで陸の孤島に甘んじていた当地が交通の要所に変化するという時がいますぐそこに来ています。

この様な大きな変化に対し各自治体の真剣な対応は勿論ですが、更に伊那谷という広域的な取組の中で活発なる論議が委ねられています。

村民の皆様も今日までのご努力で、下條村という名を全国に轟かせた実績をふまえ、新体制の中で積極的にご参加いただき、子や孫の時代に自信をもって引き継げる様、一層の努力と併せて、今日までの長きにわたるご指導、ご協力に心から御礼申し上げます。

